

はじめに

社会を構成する人と人との関係や、コミュニケーション手段などが複雑・多様化しています。特に子どもを取り巻くこれらの環境は、社会の国際化や情報化に伴い、これまでにはなかった新しい関係や仕組みが現れ、大人たちが子どもの後追いをすることも少なくありません。インターネットに接続可能な携帯電話やゲーム機を始め、それらを利用した新しい交流方法など、その仕組みを巧みに利用し、生活の一部として取り込む子どもたちをただ眺めているだけという現状が少なくありません。これらの普及とともに、出会い系サイトを利用した性的な犯罪やネット詐欺など、新しい仕組みを悪用する犯罪も増えてきています。その一方で、登下校時の子どもへの犯罪は少しずつ減少し始めています。目に見える社会での犯罪者がネット社会に逃げ込んでいるのかもしれない。

いずれにしても、子どもたちが様々な犯罪に巻き込まれている事実には変わりなく、このことに対する予防と対策を保護者や地域、学校などが関係諸機関と連携して推進していくことが必要です。現在も、多くの地域でボランティアの方々が子どもの見守り活動を始め防犯パトロールや防犯教室など子どもの安全に関する活動を積極的に推進されています。そして、それらの活動を効果的に進める研修会やワークショップなども行われ、活動の輪が広がりつつあります。

このような活動を推進している多くのボランティアの方と共に研究を進める中で、研修の中で利用できる系統的な教材が少ないという声を多く聞きました。そこで、その教材のひとつとして、このような活動に携わる方が、子どもの防犯に関する知識や理解を深めるうえで必要となってくる事柄について整理し、必要と考えられる97項目について解説した用語事典を準備しました。

この用語事典を準備する段階では、既刊の書籍や関係諸機関から出されているパンフレット、インタビュー取材や座談会による活動に携わる方からの意見などを集約し、その中から今日的な用語を抽出しました。さらに、ボランティアリーダーの方々に、活動を進める上で必要な用語に5段階の重みを付けていただき、高いものから順に97項目を選択して掲載しました。用語の編集にあたっては、すでに様々なメディアから収集した情報から最新の内容を取り上げ、編集の専門家に依頼して分かりやすく読みやすい構成にまとめました。1つの用語に対して1頁を原則に編集したため、内容的に概要だけにとどめたものもありますが、子どもの防犯に必要な最低限の用語について学習できると考えています。

しかし、最初にも述べたように社会の変化に対応するためには、適時、用語の見直しも必要になってきます。また、地域で活動を進めるには、社会の変化への対応だけでなく、その地域の特性や文化等に応じた適切な内容で研修を進めることが必要です。この用語事典が、みなさんの地域の防犯活動に少しでもお役に立てることを祈念いたします。

最後に、編集に協力いただいた脇田さん、用語に関する情報収集に協力いただいた尚和さん、用語の原稿執筆に協力いただいた石原先生、西江さんら多くのボランティアの方々に感謝いたします。

(教材作成班：目白大学 原克彦)